

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ミライク岡山南教室 (IT療育型 放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 6日		2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41人	(回答者数) 41人
○従業者評価実施期間	2025年 1月 20日		2025年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	IT療育特化型の事業所であり、子供達の生きがい等の余暇活動及び、進路や将来の就労等に繋がるような支援を行っている。 個々に合ったスキルを身に付ける事で、精神的及び、経済的自立に繋がる療育を提供している。	進路や就職等を見据えて、タイピングやプログラミング等、個々の進捗や興味、関心によって調整や変更して課題を提供している。タイピングはホームポジションで入力できるように力を入れて指導している。 一人一人の特性とスキルに合わせて職員は肯定的な言葉を使って声かけを行っている。	毎日10名来所する子どもは違つ為、一人一人にしっかりと向き合った関わりをしていきたい。 小学校高学年のプログラミングが得意な児童や中学生～高校生の利用者に対しては課題をプログラミングからワードへ移行し、より将来の就労を意識した取り組みをしている。 新たに必要と考えられる教材等の導入の為に、定期的な研修及び、個々の進捗度合いや方向性も踏まえた課題検討や教材研究を行っていきたい。
2	敷地内の駐車場のスペースが広い為、屋外での運動活動や様々な遊びが可能である。	切り替えが難しい子どもも多い中で、外での活動が可能なことは気分転換が気軽にでき易く、室内だけで過ごすより、ストレスも溜まりにくく発散しやすいことが事業所の強みと考えられる。 道路側にネットを張って路上への飛び出し防止や、職員の配置と車の出入り時の注意喚起等、子どもの安全面を考慮して支援に当たっている。	体を思いきり使って遊ぶことはできるとはいえ、制限も多くある為、子ども一人一人のやりたい遊びや活動が可能な限りできるように、事前にルールを決めたり注意喚起や説明をしたりするほか、ネットを張る等、十分な安全対策も含めた取り組みを徹底していきたい。
3	祝日のイベント活動では室内外で様々な体験や社会見学等、幅広い内容の活動プログラムを盛り込んでいる。	外出や創作活動等様々な経験ができるよう計画している。 毎回職員間でのミーティングを重ねており、外出プログラムのイベントでは必ず事前に下見を行っている。 年に1度は日々のIT療育の成果として、プログラミングを作成したり、保護者に披露する機会を設けている。	今後は利用する子どもたちや保護者の意向、要望も取り入れて計画に反映するために、イベントについてのアンケート等を実施していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	IT課題について直接指導に当たる職員の人数も限られている為マンネリ化しやすい。	取り組む課題数としては妥当だと思うが、長く通っている児童を中心に課題内容のマンネリ化が懸念されるので、興味を持って取り組むことができるように、新しい課題や教材の導入等の検討が必要。	児童の年齢や技術の習得具合を考えながらそれぞれに合った課題の設定が必要。新しい教材を本屋、またはネットで見つけたりするなど興味関心が続くように工夫をする。
2	PCを扱う設備環境や支援に当たる職員の人数の関係もあり、受け入れ児童が限定的になりやすい。	パソコンを扱っている都合上、身体面及び情緒行動面での特性の強い児童などの利用は難しい。	これまでに身体的な障害を持つ児童や、行動特性の強い児童の問い合わせも利用開始する児童は実際にはいなかったが、問い合わせ時や、見学、体験時の様子も踏まえ、保護者との面談で十分な趣旨説明による理解のうえ、利用についての判断をしている。
3	保護者や家族間同士での交流やイベントの機会が少ない。 地域の子どもや住民との交流機会も少ない。	これまでに親子が参加するイベントは何度かあったが、少ない職員数で日常の業務に追われ、保護者同士や兄弟間の交流の場を設けることは難しく実現できなかった。 さらに、近隣には幼保こども園や県内でも児童や生徒数の多い小中高校が隣接する学区内に位置し、住宅地内にある事業所であるものの、近所や地域との交流が少ない。	保護者へのアンケート等を行い、意見や要望をもとに、今後は親子参加のイベントや、保護者が集まる機会を設けての座談会等、意見交換や交流の出来る場を提供できるよう検討していきたい。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ミライク岡山南教室 (IT療育型 放課後等デイサービス)
------	------------------------------

公表日	令和7年2月28日	回収数(率)	41件(100%)
利用児童数	令和7年1月6日 44名(配布数41件)		(兄弟等重複3件)

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	33	7		1	駐車場で遊ばれているのは少し危ない時があるように思います。	屋外での活動スペースは十分あるが、屋外での活動中は安全対策としてネット柵を講じ、送迎時等の車の出入りの時は声かけや注意を促している。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	36	3		2		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	32	6		3	構造化された環境ではあるが、バリアフリー化という点では2階も使っているので身体的不自由がある場合には困るかも。	賃貸の為、増改築等ができないが、過ごしやすいよう工夫はしている。車いす等の使用には適していないのもあり、肢体不自由等ある児童の受け入れは今のところ難しい状況。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	40	1			清潔で心地よいとは思いますが、手洗い場が室内になく動線が整っていない部分が否めない。	手洗い場があるトイレは支援室の外の下駄箱横にあり、構造上改築等が難しい為やむを得ない。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	36	3		2		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	40			1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	39	1		1	ローマ字打ちがどの程度の速さでできるかや「あ～を」のローマ字の理解がどこまで進んでいるかが分からないので教えて欲しいです。	普段の送迎時等では詳細は伝えきれないが、保護者から問われた時やモニタリング等で詳細を説明している。また利用日に実際に来所いただき見学して頂くことも可能である。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	38	2		1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	38	1		2		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	34	5		2		
11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	11	6	12	12	我が子に関してはイベントに参加しないので交流はないと思う。	今後、保育園等の状況や意見を踏まえ、地域の子どもと交流する機会を検討していきたい。	
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	40	1				
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	40			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	13	6	10		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	34	4	2	1	お忙しいとは思いますが、もしお手すきの時がありましたら、その日の活動内容と事業所での様子をもう少し教えてもらえたらうれしいです	日頃は送迎時等でその日の様子など必ず伝えたり、LINE等でお知らせしたりしている。時間的に取れない場合もある為、個別で相談事があれば、後日面談等の機会を設けて話をしている。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	6	3	3		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	36	2		3	個別で対応を配慮して下さったり周囲にも馴染むような関わりをしているので助かっています。	児童については事前に職員間で情報共有し、支援に当たり、保護者にもフィードバックするようにしている。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	9	10	11	保護者会などもイベントに参加すればあるかもしれないが、我が子はイベントに参加しないので機会はない。	保護者同士の交流及び、きょうだい向けのイベントについては今後要望も踏まえ検討していきたい。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	31	2		8		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	37	1		3		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	35	4		2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	38			3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23	4		14	細かい周知・説明はない。感染症の流行時も精密機械を扱うから換気がしにくいのかなと思う。	契約時や保護者への連絡ツールにて説明、周知は行っており、各種マニュアルも保護者が閲覧できるようにファイリングして設置している。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	26	3		12	子どもは避難訓練をしたことがないと言っていました。	訓練等については毎回事前に保護者へ通知し、玄関付近にも掲示している。訓練時にはその日の利用児童に参加してもらっているが、参加できない児童については別途機会を設ける必要はあると思われる。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	33	3		5	入口が施錠されておらず、入口を入っても声が届かないと返事がなかなか無いことも。これが不審者だったらと思うと怖さはある。	不審者対策としては子どもの療育中は玄関は施錠し、インターホンについては2階事務室だけでなく、支援室の中にも聞こえる物を設置予定。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30	4		7	事故の経験がないので分からない。ケガはした事ないですが、発熱時に早急に連絡を頂き、助かりました。	事故や急病等発生時はマニュアル等に沿って迅速に対応している。手当等には主に現場の保育士及び、保健師資格のある児発管が対応している。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	41				不安が強かった時期に配慮して頂いてありがたかったです。周りの子どもたちも優しいと言って楽しく通わせて頂いています。	今後も児童が安心して通える場になるよう職員全員で努めていきたい。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	39	1	1		次の通所を楽しみにしているぐらい楽しく通わせて頂いています。いつも楽しみにしています。	一人一人が楽しんで通える事業所づくりを目指していきたい。
	29	事業所の支援に満足していますか。	41				いつもありがとうございます。	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		ミライク岡山南教室 (IT療育型 放課後等デイサービス)		公表日		令和7年2月28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		パソコンのスペースと勉強や遊びのスペースを分けている。 個別対応又はグループワーク等の時は2階の相談室を使用する事がある。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		それぞれの役割りを把握して指導にあたり、利用者一人ひとりの課題に取り組めるよう努めている。	時と場合によるが、少なく感じることもある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	5		事業所は賃貸の為、大きく改修等することは難しいが、過ごしやすいよう工夫はしている。	バリアフリーになってはいないが改修は出来ない為、身体障害等のある子どもの受け入れは今のところ難しい状況。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		余暇と課題でのPC使用が被ることで、色々な音が鳴り、気が散りやすくなる場面もみられる為、ヘッドフォン又はイヤホン等の導入も検討が必要。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		音が気になる等の聴覚過敏により、集中できない場合は2階の相談室なども利用できるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		定期的にFC全体での研修及び事業所内研修を実施しており、外部(行政、リタリコ等)による研修やセミナー等にも参加・受講している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	外部コンサルタントに依頼している。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		HPに公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		一人について現場で支援を行う職員全員がモニタリングを記入する事で、多角的に子どもの現状について把握できている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		決められたツールはないが日々の様子で気になった事はその日の内に全職員や保護者に共有し、必要であれば書面にて記録している。ツールの使用も検討していきたい。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		個別支援計画の各項目に沿って個々の課題や目的、支援内容を反映させている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		定期的にミーティングを行っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	2	通常の活動(課題)に関しては習慣付けや技術の習得の為に固定化している部分もあるが、個々のスキルやコンディションに合わせて柔軟に対応している。祝日や長期休暇中には社会勉強も兼ねての外出プログラム等を行い、普段経験できない事を取り入れている。	IT課題での難易度等の変更は個々のスキル等に応じてその都度行っているが、新しい教材の検討も必要と思われる。日々での個々の状況を踏まえ検討しながら、今後も集団の中での個別性も考慮した支援を展開していきたい。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		午後の送迎までの昼礼等でその日の利用者や送迎等に応じて必ず実施するようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		業務終了前の終礼で気付いた点は共有できている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		他の職員の対応や子どもの気になる点があった場合は全員に共有後、必要なことは紙面に記録し、改善や日々の支援に反映している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		半年毎にモニタリングを行い、年に1回は計画の見直しの為にアセスメントシートを更新し、保護者には要望や意見等について書面や面談等で確認している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		どの基本活動もバランスよく取り入れていける	地域社会との交流の提供は今後検討していきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		担当者会議は学校での開催で、午後の放課後の時間帯が多く、療育時間と重なる為、児発管が参加する事にしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		下校時間の確認が必要な場合は連絡を取っているが、年間計画や行事予定の交換等は行っていない。各学校HPから確認したり、メール配信から情報を入手して対応している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		5		放デイのみの為、就学前でのそのような機会は少なく、主に保護者からの聞き取りの他、担当のある相談支援専門員からの連絡、情報共有は時に数件ある程度。今後、就学前に検討を要する場合等、必要に応じて連携していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		5		現段階で障害福祉サービス事業所への移行の児童（生徒）はまだいないが、必要な時がくれば対応する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		5		現段階ではできていないが、子どもの事をより深く理解し、よりよい支援に繋げるために今後は必要に応じてそのような機会を設けることは検討したい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5		平日の交流は難しいが、長期休暇や祝日で交流の機会を取り入れていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3	事業所内の研修やミーティング等で参加の調整ができない事もあり。	今後、業務等の調整がつけば参加したい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		5		日頃から送迎時等やモニタリング時に保護者と当日の様子と共に必要に応じて子どもとの関わり方について助言させてもらっている。	
保護者へ	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時での説明のほか、保護者との連絡用ツールでの連絡や、HP、ブログ等で発信している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			

の 説 明 等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		気になる児童がいればこちらからも声かけをしている	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保 護 者 へ の 説 明 等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		5	現段階では3月の祝日のイベントで保護者参加のものを企画し、それを通じての交流を図っている。	親子参加できるイベントなどを通して保護者同士の交流機会を増やしたい。また、今後保護者からの要望があれば検討し実施していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		ブログやインスタグラムを通して日々の療育の様子やイベントの内容等を発信している。また、保護者との連絡は主にLINEを活用し、祝日のイベントは別紙チラシにて詳細情報を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		保護者個々への通知書類等については、職員2名以上で必ずダブルチェックし、配布の際も再度確認し配布するよう努めている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5	現段階では平日の余暇時間に近隣の方に来て頂き交流をしている。	流行の感染症等が落ち着き、安全面、衛生面等が確保できる状況になったら地域の方との交流を兼ねた企画を行いたい。	
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		職員はいつでもマニュアルを確認できるようにしており、周知している。保護者には契約時に簡略に説明している。訓練においては避難訓練、机上訓練等を定期的に行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			BCPの計画は策定し、今後計画的に訓練等行っていく予定。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		利用開始前の契約時は勿論、随時モニタリングや面談等を通じて保護者から聞き取り、確認し全職員に共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		5	保護者へのヒアリングのもと対応しており、これまで医師の指示書等の提示例はない。おやつ等の提供時や調理、食事の機会等では細心の注意を払っている。アレルギー児には個別で口にできるものを用意してもらっている。	今後、食物アレルギーを持った低学年児童の利用があれば特に注意がいる為、医師の判断を仰ぎたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		5	安全計画の作成は現在作成中であり、支援室や戸外での活動では怪我や事故が起こらないように対策を講じたり、職員の配置を考えている。	今後、行政からの指示や通知等に従い、安全管理に関する研修等あれば参加したい。さらに状況の変化や必要に応じて見直しや検討を行いながら、十分な安全管理に努めていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		5	安全計画は作成中の為、作成出来次第周知する予定。万が一、怪我等が生じた際の対応については契約時に説明をしている。その後も不明点等あれば必要に応じて、その都度説明を行っていく。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		事故等発生した場合は速やかに事業所内で共有し再発の防止策等検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		内部研修のほか外部の研修やセミナーに参加している。概ね半年毎に検証を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		現在まで該当児童はいないが、保護者に対しては聞き取りやアセスメント状況によって課題等ある場合、契約時等に説明し、計画書に記載する予定。		